

会期：2021 年 11 月 23 日（火・祝）－12 月 19 日（日）

平日：11：00－19：00　日・祝：11：00－18：00

毎週月曜休（月曜日が祝日にあたる場合も休廊）

主催：株式会社 資生堂

協力：株式会社サンゲツ、三菱ケミカル株式会社

※新型コロナウイルスの感染状況により、スケジュールおよび
内容に一部変更が生じる場合があります

Hedgehogs 中島 伽耶子

ハリネズミたち Kayako Nakashima

「shiseido art egg」は、「新しい美の発見と創造」という考えのもと、オープン以来100年以上にわたり活動を続けてきた資生堂ギャラリーの門戸を新進アーティストに開く公募制のプログラムです。15回目となる今回は、全国各地より243件の応募をいただきました。今回も資生堂ギャラリーの空間を活かした独創的な展示プランが多く提案されましたが、選考の結果、独自の視点から今日の世界の新しい価値観や美意識を表現する、石原 海（いしはら うみ）、菅 実花（かん みか）、中島 伽耶子（なかしま かやこ）が入選し、それぞれの個展を9月～12月にかけて開催します。

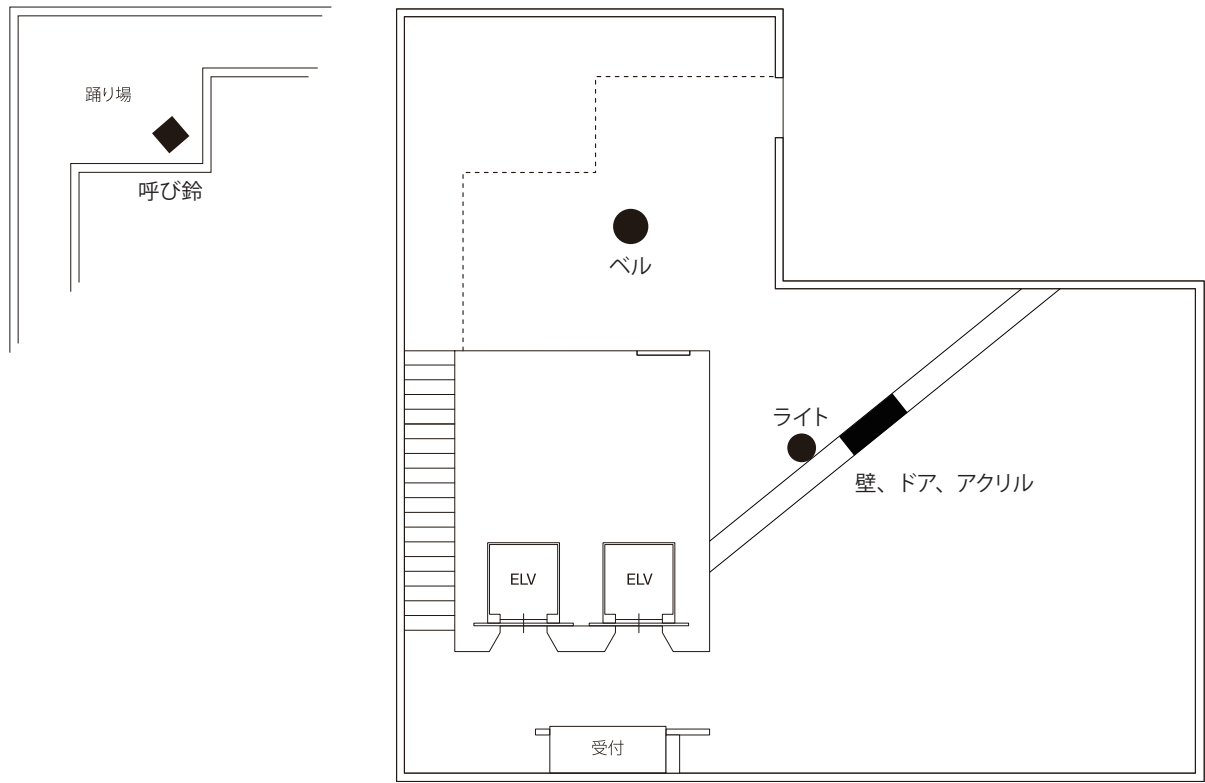
3名の応募プランには、不確実・不安定と言われるこの時代の危うさや希望の在処を問う意識が共通して秘められ、あらためて鑑賞や作品への参加を含む「アートの体験」について考えさせられるものです。展覧会を通じて、アートだけが提供できる経験を共有しようとする姿勢には、先行きの見えない時代の中で新しい価値を生み出していく貴重なヒントが孕まれているのではないのでしょうか。

第3期に展示する中島伽耶子は、資生堂ギャラリーの空間全体を使い、ひとつのインスタレーション作品「Hedgehogs（ハリネズミたち）」を作り上げました。中島は、壁や境界線をモチーフとして人や場所との関係性について問う作品を制作しています。本展で中島は、ギャラリーの大展示室と小展示室を隔てる巨大な壁を設置しました。小展示室側は明るい部屋、大展示室側は暗い部屋と分けられ、壁の向こう側にいる人を視認することはできませんが、壁にはドアがついており通り抜けられる可能性を示唆しています。明るい部屋の踊り場には呼び鈴が設置されていて、押すと会場中にベルの音が響きます。暗い部屋側の壁は壁紙で装飾されていて、寝室のようなくつろげる雰囲気醸しながらもたくさんのガラスの破片のようなアクリルが突き刺さり、その挿入口からは明るい部屋からの光が差し込んでいるという、暴力性と美を同時に感じさせる空間になっています。中島は、壁紙やベルの音、割れたアクリルなどのアイテムから、鑑賞の体験を自身の記憶と結びつけて欲しいと考えています。パンデミックで「ステイホーム」や「おひとりさま」など孤独や孤立にむすびつくような言葉が肯定される一方で、オンラインによる場所や時間を問わないコミュニケーションがより盛んになりました。しかし、その分、無意識の思い込みや偏見が露呈する場面も多く見られます。これまで以上に他者との距離の取り方が難しくなっている現代社会において、壁はどのような役割を果たすのでしょうか。音や光により伝わる壁の向こう側を想像する本展の鑑賞体験を通して、コミュニケーションについて改めて考える機会となりましたら幸いです。

物事を隔てる壁や境界線をモチーフにしながら、場所との関わりを出発点に作品を制作してきました。今回の展示では人との関係性における希求と暴力性をテーマに空間を構成しています。誰かを呼ぶためのベル、明かりがチラつく扉、侵入してくる光など、鑑賞者の意図に関わらず、何かしらのサインが巨大な壁の反対側へ送られます。私たちのコミュニケーションが容易ではないように、送られたサインに対する反応は見えず、時には無視され、受け手の環境によって思わぬ暴力性を持ちます。展示室を分断する巨大な壁は、外敵から身を守る防護壁なのか、何かを閉じ込める監獄としての壁なのか判然としません。時代とともに価値観が開かれることで、私たちはより多様な考え方を知り、理解し合うチャンスを得ると共に、より無自覚に他者を傷つける場面が増えた気がします。自分と他者とを隔てる壁を破壊しようとするのではなく、想像力を使いながら壁越しにどのような対話ができるのか、私は興味があります。

「Hedgehogs（ハリネズミたち）」というタイトルは、壁に刺さるアクリルの板がハリネズミの針に似ていることと、寓話から生まれた「ハリネズミのジレンマ」という言葉からとりました。寒い冬に、お互いに寄り添い暖め合いたいと近づくのですが、お互いの針のような毛が刺さってしまうため、離れたり近づいたりを繰り返すこのお話は、他者との適切な距離を探る心理的な葛藤を表す言葉として使われます。本来はハリネズミではなくヤマアラシという別の動物で表現されていたのが、針のような毛を持つ外見が似ていることから、どちらの動物でも同じ意味として使われているようです。短絡的に同じカテゴリーにまとめられ、ハリネズミは悲しんだかもしれないと想像しています。

中島伽耶子



中島伽耶子

1990年京都生まれ

2020年東京藝術大学美術研究科博士後期課程修了

秋田県在住

主な個展

2021 「Talk to the wall 中島伽耶子展」galerie 16（京都）

主な展覧会

2021 「奥能登国際芸術祭2020+」（石川）

2019 「FREMANTLE BIENNALE 2019」（パース、オーストラリア）

2019 「気配と存在」A-Lab（兵庫）

2019 「Fault line art festival」（花蓮、台湾）

2018 「行為の編纂・レジデンス2018成果発表展」

トーキョーアーツアンドスペース（東京）

2018 「Sculpture by the sea2018」（パース、オーストラリア）

2017 Treasure hill residency artists solo exhibition 2017 season4

（台北、台湾）

2017 お茶の京都博 和束町茶畑ビューイング（京都）

2017 「六甲ミーツ・アート芸術散歩2017」（神戸）

2017 高見島－京都：日常の果て Gallery FLEUR（京都）

2017 「Sculpture by the sea」（パース、オーストラリア）

2016 「ゲンビどこでも企画公募」広島市現代美術館（広島）

2016 「瀬戸内国際芸術祭2016」高見島（香川）

2015 「越後妻有アートトリエンナーレ大地の芸術祭2015」

枯木又集落（新潟）

2014 「Art Setouchi 2014」高見島（香川）

2013 「瀬戸内国際芸術祭2013」高見島（香川）

2012 「越後妻有アートトリエンナーレ大地の芸術祭2012」

枯木又集落（新潟）

受賞

2017 Tokyo Arts and Space 平成29年度二国間交流事業プログラム

派遣クリエイター入選 Treasure hill Taipei artist village（台湾）

2016 「ゲンビどこでも企画公募」沢山遼賞

コレクション

2016 「時のふる家」香川県高見島

2013 「うつりかわりの家」香川県高見島

コミッション・ワーク

2019 ガーデンシティー小倉（福岡）



中島伽耶子ホームページ